

アドベント第2主日を迎えました。今朝も皆さまとともに主を礼拝できることを感謝します。救い主イエスさまの恵みと平安が皆さまに続けて豊かにありますように心から祈ります。

ルカの福音書を通してみことばに聞いています。先主日は処女マリアのところに、御使いガブリエルが救い主の誕生を告げ知らせる場面を見ました。神にとって不可能なことはない。神さまのみことばは必ず成就する。そのことを信じ受け取って救い主の母としての歩みを始めたマリアの姿から学びました。

### 主のあわれみ

今朝の箇所には、この受胎告知を受けて、マリアがエリサベツの所に向かった出来事と、神さまの恵みを受け神さまを賛美するマリアの歌が記されています。今朝はこのマリアの賛美を中心に見ていきたいと思います。46-50節。

**マリアは言った。「私のたましいは主をあがめ、私の霊は私の救い主である神をたたえます。この卑しいはしために目を留めてくださったからです。ご覧ください。今から後、どの時代の人々も 私を幸いな者と呼ぶでしょう。」**

**力ある方が、私に大きなことをしてくださったからです。その御名は聖なるもの、主のあわれみは、代々にわたって 主を恐れる者に及びます。**

マリアは神さまを心から褒め称える賛美をささげます。それは神さまが「この卑しいはしために目を留めてくださったからです」と言います。先日の受胎告知を受けた箇所でも、マリアは「私は主のはしためです」と答えていました。「はしため」というのは、奴隷の女性という意味です。神さまの前に卑しく小さい自分に、神さまは目を留め恵みを与えてくださった。力ある神さま、聖なるお方がこの小さい者を顧み、救い主の母としてくださった。その喜びと幸いをマリアは歌うのです。そして「主のあわれみ」という言葉が50節には出てきます。主のあわれみ。それがこのマリアの賛歌の一つのテーマであり、クリスマスの出来事を通して示されていることです。神さまが私たちに注いでくださるあわれみ。新改訳2017の欄外注には「真実の愛」という別訳が記されています。神さまのあわれみ、真実の愛がクリスマスの出来事には示されている。神さまの恵みとあわれみは変わることなく、今日も私たちに豊かに注がれている。それが聖書が私たちに教えていることです。主のあわれみは、代々にわたって主を恐れる者に及びます、とマリアは歌います。主を恐れる者、神さまを信じ敬う者を神さまはあわれんでくださる。神さまは求める者に必ず応えて、真実の愛を注いでくださる。それが聖書の語る確かな約束です。

ではこの神さまのあわれみ、真実の愛とは一体どのようなものでしょうか？51-53節。

**主はその御腕で力強いわざを行い、心の思いの高ぶる者を追い散らされました。**

**権力のある者を王位から引き降ろし、低い者を高く引き上げられました。**

**飢えた者を良いもので満ち足らせ、富む者を何も持たせずに追い返されました。**

神さまはそのあわれみのゆえに低いものを高く引き上げ、高いものを低くするお方だ。そのように言われています。いわゆる価値観の逆転がここに起こっているということです。実際、小さな町ナザレに住む少女マリアが救い主の母として選ばれたこと。それは大きな逆転の現象でした。立派な家に生まれた特別な女性ではなく、どこにでもいるような普通の女性を神さまは選ばれた。そこに神さまのみわざの特徴が現れています。この後起こる救い主の誕生も、逆転の連続です。お城や宮殿ではなく馬小屋に救い主が生まれること。王様や貴族にではなく、宗教的に立派な人にでもなく、羊飼いに救い主の誕生が告げ知らされること。全てこの世の価値観や考え方とは全く違うことがクリスマスの出来事には起こります。世の中が大きいと考えるもの、世の人が価値を置くものが、神さまの前では小さくされ、世の人が小さく価値のないものとみなすもの、人々が見捨てて無視するようなものが神さまの前で大きく用いられていく。そのような恵みを聖書は私たちに教えているのです。私たちのためお生まれくださった救い主イエスさまもまた、世の中で小さいものと言われる人たちと交わり食事をし、汚れた者、罪人と呼ばれる人たちに神の国の福音を宣べ伝えられました。イエスさまの教える福音、ご自身の生き方を通して示された神の国の価値観は、世の中が考えることや大事にすることとは全く違うものであった。そのようなことを聖書は私たちに教えています。それは逆に、権威のある人は救いの対象とならないとか、お金持ちは神さまに愛されないとか、そういうことはありません。51節にあるように、富や権力ゆえに心の思いの高ぶっている者に神さまは裁きを下される。この世の富や権力に心奪われ、思いの高ぶった者を裁き砕いて、本当に大切なもの。神さまを信じ神さまとともに生きることを、イエスさまは教えてくださる。そのような恵みがここには示されているのです。

今日この礼拝に連なる私たちもまた、この低い者を高く上げられる神さまの恵みのうちに生かされています。私たち一人ひとりがこの礼拝に連なる者とされている。そこには私たち人間の側の素質や能力、持っている富や権力というものは一切関係ありません。むしろ私たちは聖書を通して自分の罪を知り、自分は神さまの前に小さく弱く、取るに足らない存在であること、滅びにふさわしい者であることを知る者とされています。そのような私たちがイエスさまの愛によって救いをいただき、神さまからの一方的な恵みとあわれみによって神さまを礼拝しイエスさまをほめたたえる幸いに与っている。まさしく、低い者を高く引き上げられる神さまのあわれみのゆえに、私たちはイエスさまとともに生きる幸いを与えられているのです。

使徒パウロはこう語りました。第一コリントの1:26-29。

**兄弟たち、自分たちの召しのことを考えてみなさい。人間的に見れば知者は多くはなく、力ある者も多くはなく、身分の高い者も多くはありません。しかし神は、知恵ある者を恥じ入らせるために、この世の愚かな者を選び、強い者を恥じ入らせるために、この世の弱い者を選ばれました。**

**有るものを無いものとするために、この世の取るに足りない者や見下されている者、すなわち無に等しい者を神は選ばれたのです。肉なる者がだれも神の御前で誇ることがないようにするためです。**

小さな私たちに注がれている神さまのあわれみ。罪深く愚かなこの私が神さまによって選ばれ、神さまの愛と恵みを証するようにと召されている。卑しく小さいこの私を覚えていてくださる神さまの恵み、真実の愛に私たちは目を向ける者でありたい。そしてこの神さまの前に低くへりくだって、本当の自分の小ささ弱さを認めて、神さまからいただくあわれみにただただ感謝する。そのような者とされていきたいと思います。

### **あわれみを待ち望む**

そしてこの神さまのあわれみは、決して変わらないものであると告白されています。54節と55節。

**主はあわれみを忘れずに、そのしもべイスラエルを助けてくださいました。**

**私たちの父祖たちに語られたとおり、アブラハムとその子孫に対するあわれみを いつまでも忘れずに。」**

神さまはあわれみを忘れずに、イスラエルを助けてくださった。そのようにマリアは語ります。神さまは特別な恵みの中でイスラエルという民族をお選びになりました。そのイスラエルと結んでくださった約束を神さまは忘れることなく、イエス・キリストというお方を通してあわれみを注いでくださる。先日もクリスマスの出来事は、旧約聖書に記される約束の成就であるとお話ししました。神さまがこうすると言われるならば、必ず成就する。神さまがあなたを救う、あなたを祝福すると語ってくださるなら、それは実現する。クリスマスの出来事はそれを私たちに教えています。そしてこの変わることをないあわれみは、イエスさまを通してすべての人に、私たちに注がれています。神さまは必ず私たちをあわれんでくださる。私たちに対するあわれみを神さまは決してお忘れにならない。それがクリスマスの出来事が私たちに教えていることなのです。

神さまのあわれみがあなたに注がれています。そのように言われても、中々実感できないと言いますか、今はあわれみを感じることができない。そのようなことが私たちにはあるかもしれません。キリスト者として生きていても、いつも神さまのあわれみや愛を感じられるわけではない。そんな現実があると思います。信仰を持って生きていても、いつも薔薇色の人生を生きることができないわけではありませんし、いつも喜びいっぱいなのではない。やるせないこと、やり切れないこと、苦しみや痛みを経験することが私たちにはあるわけです。

しかし神さまは決して、私たちを忘れておられない。あなたを忘れてはおられない。聖書は、そしてクリスマスの出来事はそれを私たちに教えます。クリスマスの喜び。それは私をあなたを神さまが覚えていてくださること。神さまは決して、あわれみをお忘れになるお方ではないということです。そこに本当の喜び、本当の希望があります。このあわれみの約束と、そこに示される神さまの真実に私たちはいつも目を向ける者でありたいのです。

先日水曜日の祈禱会ではユダの手紙を読みました。あまりまともに読んだことがない手紙だとは思いましたが、こんな言葉に私は目が止まりました。ユダの手紙21節。

**神の愛のうちに自分自身を保ち、永遠のいのちに導く、私たちの主イエス・キリストのあわれみを待ち望みなさい。**

私たちの主イエス・キリストのあわれみを待ち望みなさい。この御言葉が祈禱会を通して与えられ、また先週の歩みの中、説教の準備をしている時にも思い起こされました。ユダの手紙を読んでいますと、その宛先の教会には間違った教えの問題や、それゆえの混乱や不和、分裂の問題があったことが見て取れます。傷つき痛む教会やキリスト者に対して、主のあわれみを待ち望むようにとユダは励ましています。私たちの主イエス・キリストのあわれみを待ち望みなさい。今はあわれみを感じることができないかも知れない。今は苦しい、希望を見出せない。そんな時かも

知れない。それでも私たちには、主のあわれみを待ち望むことが許されている。待ち望むようにと聖書は教えている。そのことに私たちは心を向ける者でありたいのです。

そしてもう一つ、これもまた先週の祈祷会で与えられた御言葉。今度は木曜日の方で、こんな御言葉が心に留まりました。詩篇105篇の18-19節。

**ヨセフの足は 苦しみのかせをはめられ その首は 鉄のかせに入れられた。彼のことはそのとおりになるときまで 主のことは彼を錬った。**

これは創世記に出てくるヨセフという人物について語っているみことばです。苦しみを感じ不自由を経験するヨセフに対し、主のみことばは彼を錬ったと言われています。実際このヨセフは無実の罪で牢屋に入れられ長いこと囚人としての生活を経験しました。しかしその経験を通して、神さまは彼を錬ってくださいました。みことばによって成長させてくださったと聖書は教えるのです。考えてみると、聖書に記される信仰者の生涯は、その多くが長い時間待たされる生涯、たくさんの時間を待つことに費やした、そんな生涯であると言えます。しかしそれはただ無駄に待っていたわけではない。ヨセフがそうであったように神さまはみことばをもってその人を錬り試し、成長させてくださった。そんな神さまのあわれみにも先週は目を向けることができました。私たちの人生にも、時にうまくいかないこと、思い通りにいかないことや、遠回りをさせられること、思っていた道が閉ざされることがあります。思わぬ悲しみや痛みを経験し、我慢や忍耐を求められることがある。しかしそのような時にも、神さまはあわれみを決して忘れてはおられない。時間がかかったとしても必ず私たちを守り導き、その待っている時間すらも用いて私たちを成長させてご自身のご計画のうちに生かしてください。そのような神さまの恵みとあわれみを聖書は私たちに教えているのです。

実際イスラエルの民は、救いの計画が成就しイエスさまが誕生されるまで、何100年もの間待ち望み続けました。アブラハムに与えられた祝福の約束からイエスさまのご誕生までは実に2000年が経過しています。私たちにも神さまは、素晴らしいご計画を用意してくださいます。救い主イエスさまと出会ったことももちろんそうですし、このお方にある永遠のいのちに生かされていることももちろんそうです。そしてそれとともに、神さまが私たちの生涯やこの八千代聖書教会を通してなそうとしておられることがある。神さまの恵みのご計画になる時、神さまのあわれみが注がれみこころがなされていく時が必ず来ることを、私たちは信じる者でありたいのです。

**主はあわれみを忘れずに、そのしもべイスラエルを助けてくださいました。**

**私たちの父祖たちに語られたとおり、アブラハムとその子孫に対するあわれみを いつまでも忘れずに。」**

今日も神さまは私たちをあわれみ、豊かな愛と恵みをもって導いてくださっています。神さまの前にへりくだり、主が注いでくださる恵みに心から感謝して、また主のあわれみ、主の時を待ち望む者とされたいと思います。いつも変わらぬ愛をもって私たちを支え導き見守り、成長させてくださる神さまに信頼して、イエス・キリストを通して示された豊かなあわれみに感謝しつつ、アドベント・クリスマスの時をともに過ごす私たちとさせていただきます。

お祈りをいたします。「天のお父さま。みことばをありがとうございます。あなたの変わることのないあわれみ、豊かな愛を今朝も教えてくださいありがとうございます。私たちは時にあなたのあわれみを見失い、不安になったり失望したりしてしまう弱い者です。しかしどんな時も変わらないあなたの愛と恵みに信頼して、あなたの時を待ち望む私たちとどうかならせてください。あなたの御前にへりくだり、低き者を高く引き上げてくださるあなたの恵みに信頼することができますように。御言葉に感謝して、主イエス・キリストのお名前によってお祈りいたします。アーメン。」